

先生 生徒

1:40の教室を、前向きな軌道に乗せる。

若手先生のためのクラスマネジメント講座

「生徒全員と円滑なコミュニケーションがとれ、クラス一丸となってそれぞれが描く理想の未来へ前進する」
そのようなクラスを育てようと、日々悩み、試行錯誤を繰り返されている若手先生が多いとお聞きします。
生徒の心に火をつける指導に定評のある堀浩司先生が、講義と対談で、その実現をサポートします。

この時期のキーワード



クラス経営を成功させるためには、高校3年間の各時期で重視すべき指導ポイントがあります。
向かうべき進路が決まった11・12月の指導では何を重視すべきか。さっそくキーワードを確認しましょう。

1年生

アンテナを伸ばす

文理選択の延長線上にある近い未来の将来像を想像させることで、進路にかんする様々な情報にアンテナを伸ばし、勉強へのモチベーションアップにつなげる。

2年生

受験生にさせる準備

3年生0学期目前。スムーズに受験勉強をスタートできる準備として、進路研究や学習課題の洗い出しなど、今できることにしっかり取り組ませる。

3年生

受験は「団体戦」

そろそろ推薦で合格を決める生徒も出る時期。これから受験を迎える生徒のためにも、受験は団体戦という意識を改めて植え付けることが重要。

講義編

進路実現へのロードマップを示し、近い未来の将来像を想像させる。

今後の進路がある程度決まったこの時期は、次の一手を打てるように、ロードマップを示しておく必要があります。つまり、入試までどのようなステップが待っているかという見通しを伝えると同時に、進路実現のためには、「どれくらいの学力が必要か」、「今の段階でどの程度完成させておくべきか」などを洗い出させるということです。特に3年生0学期を目前に控えた2年生については、教科にまで踏み込んでやるべきことを具体化させることが効果的です。1年生については、最低限の学習時間は担保しつつも、まずは社会人や大学生の活躍している姿を見せるなど、進路にかんする様々な情報にアンテナを伸ばしながら、文理の先に待つ将来像に憧れを抱かせる指導が先決です。

担任が垣間見せる本気の熱意、それが最後の団体戦に生きる。

ホームルームでの進路指導において欠かせないのが、クラスが一丸となって目標に向かっていくというチーム意識の醸成です。その意識は、推薦で合格する生徒なども現れる3年生の今の時期、受験ムードを壊さないためにもとても重要になります。そして、その意識醸成のための大事な要素の一つが担任先生の「熱意」です。例えば、私が現役時代、隣のクラスの担任先生と競争し、勉強でも行事でも「あのクラスに勝とう!」と鼓舞していたことがあるのですが、普段は理路整然と正論を説く先生がふと見せる本気の熱意は意外に生徒に響くもの。「あの先生が、あの熱意で言うなら付き合おう」、そんな風にクラスが自然とまとっていき、最後の団体戦に生きてくるんですね。

この時期の
面談事例
が読めます

Benesse High School Online

ハイスクールオンライン

検索

http://www.bhso.ne.jp

「Benesse High School Online」へアクセス
指導→「担任」→「面談」→ケース名

※Benesse High School Online は高校の先生専用の情報サイトです。
詳細は裏表紙をご覧ください。

～4時限目～

進路選択後に進む

ロードマップを示そう

私が
答えます!



龍谷大学
高大連携推進室フェロー

堀 浩司 先生

「家から近い大学ではなく、夢から近い大学」をモットーに、3年間の体系的な進路指導ストーリーに基づき細かな指導を実践。滋賀県の公立高校(守山高校、草津東高校など)において、多くの生徒を合格に導いてきた。生徒の心に火をつけ、モチベーションを高める熱い指導に定評がある。

質疑応答編

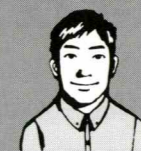
今回の
相談者



K先生

神奈川県私立中高一貫校に勤務。教諭歴4年目。
最後の最後で一伸びできるような生徒を育てるためにも、学校での日々で充足感を与えてあげたいと話す。

S先生



神奈川県私立中高一貫校に勤務。教諭歴4年目。
生徒が気を緩めることなく進路研究や学習に臨めるよう、小さなことにも達成感を与える指導が目標。

学力向上のペースを築くためにも 改めて生活習慣を見直させたい…

S先生 私は、学力と生活には必ず相関があると思っています、文理を選択した今こそ、改めて生活面の見直しをさせたいのですが。

K先生 「毎日の小さな勝負にきみは何勝何敗?」。そんな声かけは有効だと思います。7時に起きる予定が寝坊してしまっただけ。でも、教室には早くついて、窓を開けて換気したから一勝みたいな。そのように、毎日の小さなことに勝敗をつけながら、勝ち越していくことをめざそうよという声かけです。

S先生 ああ、それは面白いですね。毎日に達成感を得られそう。

K先生 そうなんです。今日は勝ち越せた」という達成感が少しずつ貯金になっていくと、いろいろなことへのモチベーションが高くなっていきますし、それまでは面白く感じられなかった勉強にも喜びを見出せるようになっていってほしいですね。

受験に向けて高まるムードを 推薦合格者と一緒に高めるためには?

K先生 3年生の担任として、この時期は、先に推薦合格が決まった生徒がクラスの雰囲気を変えないかとても不安なんです。

K先生 推薦を受ける生徒と、事前に約束を結んでおくことも大事ですね。つまり、推薦の条件として「合格しても絶対にクラスのムードを壊さないこと」「一般受験組のためにクラスのサポートをすること」というような約束を交わしておくんです。

K先生 クラスのサポート役になってもらうのは、いいですね。

K先生 結構ちゃんとやってくれますよ。我々はどうしても「早く合格した生徒が雰囲気を壊すんじゃないかな」というように牽制してしまいがちなんですけど、「早く決まったら協力してね」と頼むと、今の生徒たちは意気に感じるようなところがあって、それもうまくクラスの団体戦ムードを高めることにつながりましたね。

勉強に効率ばかり求める。 本当にそれでいいのか?

S先生 各テスト後に振り返りシートを書かしているのですが、それを見ると、効率的な勉強法ばかり求める声が多いのですが。

K先生 生徒はとにかく「コスパのいい勉強」といったことを必ず言いますね。確かに要領も大事ですが、でも、そういう打算的な学習ばかりになってほしくはないですね。

S先生 そう思います。

K先生 だから「サプリメントばかり食べていても健康な体はつくりえないよ」というように食べ物に例えた話をしていました。時間をかけて咀嚼して消化吸収することの大切さを理解させたいので、「そういえば、英語の文法・語法が苦手みたいだね」と、担任が自分の教科以外の成績データにも細かく目を光らせてアドバイスする。その一言が、結構効くんですよ。

受験に向けてクラス全体の モチベーションを高めるには?

K先生 学校生活に充実感を得られないと言う生徒が多く、受験に向けてどうモチベーションを高めていくのかも悩みなんです。

K先生 例えば、私は進路通信を発行する際に、「チャレンジする人しか、ミラクルは起こらない」という言葉を毎回署名のように掲載していました。そんな風に、スローガンを繰り返し見せ続けることで、士気を高める効果があるんです。

K先生 私もHRなどで、同じメッセージを繰り返し話すようにしていますが、効果があると知って安心しました。

K先生 同じことをぶれずに発信し続けるのは大事です。ちなみに先ほど紹介したスローガンは、共通テスト前日のHRで、しおりにして生徒全員に渡したのですが、生徒はとても喜んでくれましたね。